

第1回 三重県立白山高等学校「学校運営協議会」 概要

令和元年5月8日(水)18:00～

欠席者:吉田、藤田、島田、前川、山下氏

1 あいさつ

校長 赴任1年経過。地域に支えられている印象。甲子園出場は地域にとっても大きな出来事だった。新年度は落ち着いた様子。例年はJRから乗車マナーに関する苦情があるが、現在はない。部活動は1年生が多く加入。野球・弓道・卓球等が県大会へ、商業・吹奏楽・茶道等は地域との交流が密である。

学校活性化協議会は3年目。少子化の中ではあるが、入学者数を定数に近づけたい。基礎学力・地域との連携・広報・部活動の活性化が大切。コミュニティスクールは4期7年目。効果を検証しつつ、今後も皆様のお力をお借りしたい。

県教委 白山高校のような試みは全国的に普及しつつある流れであり、先駆けとして成果を上げている。甲子園出場を通じて地域と学校とのつながりを実感した。今後も生徒の学びの向上に貢献できれば、と考えている。

2 委員自己紹介 省略

3 報告事項

(1) 取組の経緯と今後の方向性について:P. 6

- ・ 中・高の連携のみならず、地域との連携が重要。
- ・ 平成30年度の取り組み状況説明:P. 8～9
- ・ コミュニティスクールは地域を活性化できる人材の育成が目的。今後とも協議会を通じて継続的に活性化を図りたい:P. 10～11

(2) 平成30年度 白山高等学校「学校マネジメントシート」について:P. 12～16

- ・ 5項目の活動・成果指標及び結果の説明→確認の上、令和元年度の提言をお願いしたい。

4 協議事項

(1) 令和元年度 会長と副会長の選出について

- ・ 立候補なし→引き続き会長を吉田健一様、副会長を岩崎忠弘様をお願いしたい。・・・承認

(2) 令和元年度 白山高等学校「学校運営協議会」の年間計画について:P. 17

- ・ 「3部会」を展開し、今年度もさらに充実化させたい。
- ・ 第2回は学習指導部会。学習が苦手な生徒が多い中、授業のユニバーサル化を目指して取り組む。授業見学の上で提言をお願いしたい。
- ・ 第3・6・7回は地域交流部会。南家城クリーン作戦(貢献)、文化祭(広報)、こんにやく講習会(学び)への参加を。これらが生徒の自己肯定感に繋がれば。
- ・ 第4回はキャリア教育部会。長期インターンシップの現場を見学。仕事を通じて幅広い世代との交流を図るもの。
- ・ 第5回で中間評価、第8回で年度末評価を行う。

○退学者が多いようだが、今年度の現在の状況は？、また退学の原因は何か？

この1ヶ月間では生徒数に変化なし。ただし、連休後の生徒の動向には注意している。退学の要因として、不本意入学が多い、通学が大変、人間関係の不調等さまざま。成績不振に起因する転学もある。この他、生徒の多様化、コミュニケーション能力の低下等も原因か。

○今は1人でも遊べるのでコミュニケーション能力はさほど必要ないのでは？

○SNSを介したコミュニケーションへの変化はみられるが、やはりコミュニケーション能力は必要。

○喧嘩・暴力等の件数は減少しているが、逆にSNS上のトラブルは多発。教員に見えない所でのトラブルなので、初期対応がしにくい。連休後に欠席がちな生徒も多少出ているので、生徒の本音を聴き出す指導を心掛けたい。

○各々がスマホ依存して、会話のない社会になっていく？ 世の中の変化を感じる。

○確かにその傾向はあるが、スマホを通じた新しいコミュニケーションも成立している。生徒の現実の姿も見たい。

(3) 令和元年度 白山高等学校「学校マネジメントシート」について:P.18

・「1 目指す姿」については昨年度に引き続きさらに充実化させたい。

・「2 現状認識」について、

- ① 昨年度からの変更点として、「部活動の充実化」という文言を追加。
- ② 「基本的生活習慣の確立」を望む声については生徒の伸びしろへの期待感によるものか。
- ③ 進路指導に対する期待感の高まりが見られる。
- ④ 学校と家庭、双方の協力体制が重要。
- ⑤ 中学校との情報共有をさらに深める。
- ⑥ 従来の課題克服へ向けて努力を継続させる。

・「3 中長期的な重点目標」については従来通りの目標を継続させる。

・「4 本年度の行動計画と評価」について、特に以下の点を重視する。

- ① 昨年度は身だしなみを重視していたが、今年度はさらに登下校時の指導にも力を入れる。
- ② 地域の声を活かした学校づくりを推し進める。
- ③ 人材等、校外の資源を活用したキャリア教育。
- ④ 地域の美化を図り、習慣化させる。
- ⑤ 困難な状況にある生徒の支援を充実化。
- ⑥ 教員の人材育成と働きやすい環境づくり

○「地域美化のために」という文言があるが、現状は？

○登校時のゴミは減少している。下校時は監視の目が少なくなることもあり、本校生徒によるゴミが多少あることは認識している。昨年同期と比較すると格段に減少している。

○先生方が心配。毎朝の掃除等、働き方改革と言いつつも、多様化する生徒への対応の中でより多忙化しているのでは？

○スクラップ&ビルドに注力しなければ、とは考えるが…。目の前に生徒がいる以上帰れない。また人員の少なさも要因。働きやすい環境を整えたい。抜本的な対策があれば…。

○先生方はやるべき事、できる事は全てやっていると感じる。負担が心配。新しい事業に取り組むということだが、コーディネーターを導入することで、却って「成果を出さねば」という負担を生むのが心配。先生方の負担が減るのが本来の在り方。良い意味で「適当」に活用したほうがよい。

○あくまで現在の取組の中でコーディネーターを活用できれば。インターンシップの受け入れ先が減少してい

るので、新規開拓に活用できれば、などと考えている。

○P. 18 に「自尊感情が乏しい」という文言があるが、「自尊感情を地域との交流の中で育む」のような内容で文章化してはどうか。

○今後検討していきたい。

○コミュニティスクールの高校が全国的に増加傾向にあるが、三重県は今後どうなるのか？

○CS は地域教育力の活用が目的。三重県ではその地域・学校の必要に応じた導入を考えている。

5 連絡事項

次回（5月18日）の日程確認。早めに御来校の上、2限目(10:00～)からでも授業見学して戴き、その後
意

見を頂戴できれば有難い。